

大船渡地区消防組合消防本部の活動の概要等について

大船渡地区消防組合消防本部
総務省消防庁

大船渡地区消防組合消防本部の活動状況

大船渡地区消防組合消防本部は、地元消防本部として火災発生時の初動対応を行い、緊急消防援助隊等の応援を要請するとともに、合足・港地区における放水活動、田浜地区等における残火処理などに従事した。

【活動期間：2月26日～3月31日、活動人数：延べ1,324人（R7.3.31現在）】



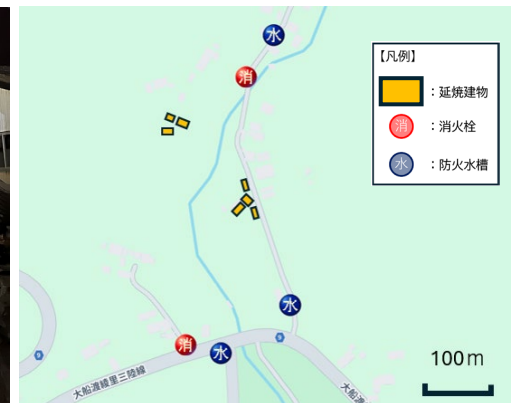
2月26日、大船渡市合足地区
・出動隊から見た延焼の様子
・風向、風速等を勘案して部隊の配備を指揮
・急激な気象状況の変化などにより、災害状況が常に変化
・強風時には、消防本部のドローン使用が困難



2月26日、大船渡市港地区
・協定を締結した民間企業の車両による充水の様子
・活動初期から充水体制を確保できたことで、継続的な消火活動が可能となった。



2月27日、大船渡市合足地区
・延焼建物への放水活動の様子
・延焼建物から消防水利まで遠く、長距離のホース延長が必要であった。



3月24日、大船渡市田浜地区
・地元消防本部による残火処理の様子
・背負い式水のう、熱画像直視装置を活用し、活動の効率化が図られた。



大船渡市林野火災における地元消防本部の活動の振り返り

※地元消防本部への調査結果をもとに作成

広範囲における情報把握【初動対応】

- ・複数地域での延焼が見られたことから、消防力の不足を早期に判断し、速やかな応援要請を実施したことが有効だった。
- ・空中消火を行った防災ヘリや地上パトロールを行った警察からの情報は、延焼状況の把握に有効だった。
- ・一方、急激な延焼拡大や飛び火等による広範囲の延焼により、全容把握や的確な部隊配備が困難であった。
- ・継続的な警戒を行うため、夜間・強風時における上空からの情報収集（ドローン）の必要性が認識された。

長時間にわたる消火活動に必要な消防水利の確保【担当エリアにおける放水活動】

- ・県内応援隊が所有する大型水槽車や協定締結先の民間業者が所有するコンクリートミキサー車等による水利確保が有効だった。
- ・一方、継続的な放水量を確保するためには、無限水利等を活用する必要があった。
- ・また、消防水利の数が限られていたため、災害現場までの遠距離送水が必要となった。

効果的な消火活動に向けた資機材の整備【担当エリアにおける残火処理】

- ・背負い式水のうによる機動的な放水活動や熱画像直視装置による効率的な熱源検索が有効だった。
- ・一方、背負い式水のうの配備数が限られ、給水場所までの往復など、時間と労力を要した。
- ・また、熱画像直視装置の配備数が限られ、熱源検索を実施できる範囲が限られた。
- ・さらに、これらの搬送手段が不足したため、広域に及ぶ活動範囲への資機材搬送に時間と労力を要した。

強風下における消防対策の強化

- ・大船渡市林野火災の教訓を踏まえ、適切な初動対応や延焼防止のため、飛び火警戒要領等の見直しについて検討の必要性が認識された。
- ・活動が広範囲になる中、地元消防本部と消防団等が連携するため、情報共有体制の必要性が認識された。